

主要な出来事

1 内政

- １０日，野党６名の大統領選挙立候補届の受理
- １９日，ンダイゼイエ元大統領の大統領選挙立候補届の受理

2 外政

- ２月２８日，在ラヌーン・ブルンジ総領事館の開設

※以下は，明示的に記載したものを除き，ブルンジ・オンライン・メディア IWACU の報道の取りまとめ。

1 内政

（１）大統領選挙への立候補者（１１日）

１０日，国立独立選挙管理委員会（CENI）は，大統領選挙候補届けを提出した１０名のうち，４名が選挙法の基準に満たず，６名が大統領選挙候補となった旨発表した。基準に満たなかった候補者は，①ビジリマナ（Mr. Jaque BIGIRIMANA）FNL党首，②ニヨンクル（Mr. Anicet NIYONKURU）CDP党首，③カバクレ候補（Mr. Valentin KAVAKURE）FPN-Imboneza代表，④ンダイゼイエ（Mr. Domitien NDAYIZEYE），Kira-Burundi 野党連合代表の４名。なお，希望者は２日以内に憲法裁判所に対し異議申し立てができる。

（２）ンダイゼイエ元大統領の立候補届の受理（２０日）

１９日，憲法裁判所は，１０日，選挙法の基準に満たさないという理由で国立独立選挙管理委員会（CENI）が大統領選挙への立候補届を受理しなかった４名のうち，Kira-Burundi 野党連合代表のンダイゼイエ元大統領の出馬を認めた。

（３）Kira-Burundi 野党連合の国会議員選挙からの排除（２４日）

２３日，バリサコ（Aloys BARICAKO）Kira-Burundi 法定代理人は，記者会見の場で，５月２０に予定されている国会議員選挙及び地方議会選挙への立候補に関して，国立独立選挙管理委員会（CENI）が，同党からの候補者全員の立候補を承認しなかった点について言及し，CENI が同選挙から Kira-Burundi 党を排除しようとしていると非難した。また，ンダイゼイエ元大統領の同党からの大統領選挙出馬が憲法裁判所から認められたのは，同党が不服申し立てを行った後であると述べた。

2 外政

(1) 在ラユーン・ブルンジ総領事館開設（28日：RNA）

2月28日、ブルンジ政府は、西サハラのラユーンに総領事館を開設した。過去3か月で、モロッコの西サハラ地域の首都（原文ママ）に総領事館を開設したのは、ブルンジを含め6か国である。同開設式典には、ニビギラ・ブルンジ外務大臣及びブリタ・モロッコ外務・国際協力大臣が出席した。

3 経済

(1) 外貨即時送金受取におけるブルンジ・フランの使用（18日）

18日、ンゲンダンガニャ（Prosper NGENDANGANYA）ブルンジ中央銀行（BRB）金融安定・包摂監督局長は、外貨両替が許可されているのは商業銀行のみであり、ウェスタン・ユニオン及びマネーグラム等を通じて行われる全ての外貨即時送金の受取は、ブルンジ・フランで行われると発表した。また、外貨口座を所有する個人については、外貨での引き出し及び預金の継続は可能であり、国際取引を行う業者に対する適切な措置についても近日中に講じると述べた。

(2) コロナウイルス感染拡大防止策による経済低迷（25日）

21日、ブルンジ政府がコロナウイルス感染拡大防止策として、非公式ではあるが実質的に全国境を閉鎖して以降、コンゴ（民）、ウガンダ、タンザニア、ブルンジからのバスやタクシー客で賑わうブジュンブラの市場では、客や旅行者数が大幅に減少した。

4 その他

(1) ブルンジにおける国際水の日に係る式典の開催（27日）

26日、国際水の日（本来は22日）を祝す式典がブルンジにおいて開催された。ンドリマナ環境大臣は、「24,787か所ある湿地帯のうち1,418か所が消滅し、2,508か所が完全に干上がっている。ブルンジ政府は、水源や湿地帯の近くに水分を吸収する木々の植林を禁じている。」と述べた。また、水・エネルギー・鉱業省の水・衛生担当局長によると、首都のブジュンブラ市民の90%は飲料水が入手できるが、地方住民の飲料水へのアクセスは71%である。

（了）